

熊本市市民活動支援センター・あいぽーと
市民活動総合情報誌

あいず

eyes

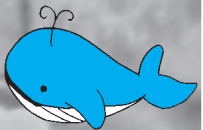
第3号

2013年7月号

特集

活動をどうやって伝えますか？

「くまもと・わくわく基金」シンポジウム「寄附者の思いは伝わった？」
平成24年度「くまもと・わくわく基金」助成事業の成果レポート
平成25年度の「くまもと・わくわく基金」助成団体が決まりました！





Contents

特集

活動をどうやって伝えますか？ 1

「くまもと・わくわく基金」シンポジウム「寄附者の思いは伝わった？」・・8

平成24年度「くまもと・わくわく基金」助成事業の成果レポート..... 10

平成25年度の「くまもと・わくわく基金」助成団体が決まりました！・・ 13

リレーエッセイ

イスラム世界のボランティア活動 7

シネマ放談

「最強のふたり」 14

NPO法人ははじめの一步（2）「申請書案の作成」 16

新しい NPO 法人の紹介 17

おしゃべリノート

あいぽーと仲間の1 週間 「ピープルファースト熊本」 18

くまもと・わくわく基金からのお知らせ 19

あいぽーとの事業紹介 20

.....

ある日のあいぽーとでの
一コマ。熊日童話会に来て
いた子どもたち、お話が終
わって出てきたところ、た
またまサークルの練習に來
ていたハワイアン・バンド
の人と遭遇。「ハワイから
来たの？」と興味津々。
持っていた楽器を触らせて
もらい、目を輝かせていま
した。こんな出会いがあい
ぽーとは日常的に起こっ
ています。思わぬ出会いか
ら、さまざまな活動をつな
ぎ付けるお手伝いまで、これ
からももっと「わくわく」
する場を創っていきたく
思います。どうぞ新しい発
見を求めて、あいぽーとに
足を運んでくださいね。

(和)



表紙写真の紹介

特集

活動をどうやって伝えますか？

せっかくの活動も、本当に伝えたい相手に届かなければ意味がありません。
どのようなメディアで伝えるか、どのような場面で伝えるかを考えてみましょう。



●活動を伝える主なメディアとその特徴

①会報



主に会員向けに定期的に情報を発信するアイテムとして利用されています。場合によっては会員でない人も目にするところがあることから、団体の活動を伝えるツールとして、読んでみたくなる、読みやすいための工夫が大事だと言えます。

②パンフレット



団体の自己紹介するものとして、団体の基本情報をまとめて読んでもらうツールです。団体の顔としての機能もあり、名刺代わりにもなります。あまりページ数が多いとコストがかかるので、場合によっては1枚ものの概要リーフレットと使い分けることも必要です。

③チラシ

イベントの告知などで多くの団体が利用しているツールです。特定の場所で、手に取ってもらうことができ、知ってもらうきっかけとして機能します。初めての人を想定し、情報はコンパクトに一目で伝わるよう、ビジュアルや文章のトーンも考えましょう。また、手に取ってもらえる確率の高い場所に設置することも重要になってきます。地域向けのイベントなどは、公民館等の掲示板に掲示してもらえれば効果的です。



④ポスター

“通りすがりの人”に向け、団体の活動を知ってもらうきっかけになるツールです。人目を引き、最低限の情報がコンパクトにまとまっていることが必要です。

⑤新聞やテレビなどの報道



タイムリーな話題やイベントなどであれば、取材してもらうことで、広く素早く情報を提供することができます。そのためには、日頃からマスコミ向けに情報をリリースしていくことが必要です。記者といい関係を作ることができれば、継続的な力となります。

⑥広報誌、タウン誌



共通のつながりの中で情報発信できる地域に根ざしたメディアとして、意外と反応がよく、特に高齢者や主婦によく読まれています。コストをかけずに掲載してもらえる場合もあり、上手に活用しましょう。

⑦ホームページやブログ、メールマガジンなど



パソコンや携帯電話の普及に伴い、場所や時間の制限もなく、即時性もあり、コストも低い最も注目されているメディアです。詳しくは2ページをご覧ください。

⑧あなた自身

いろいろな人に合って、いろいろな話をする。生身の言葉が持つ説得力は何よりも強いです。どんどん出ていって、活動を伝えましょう。ただし、その際はあなた自身の印象がとても大切ですので、日頃から表情や話し方に気を配るようにしましょう。

ネット関係のいろいろな伝達手段

ポスターやチラシを作ったり、配布したりする労力が限られている市民活動団体にとっては、興味を持ってくれるたくさんの人々にメッセージを伝えることができるインターネットは心強い味方です。

そのうえ、新聞やテレビなどのマスメディアと違って、コストをかけずに利用できるところが魅力です。ひと口にインターネットといっても、ホームページなどのWEBサイト、メール、ツイッターやフェイスブックなどのSNSがあります。

● WEB サイト

ホームページ

インターネット上の団体の窓口。団体の目指すものや活動内容はもちろんのこと、イベントやボランティア募集などの情報、財務諸表など、情報公開の場としても利用できます。更新頻度が低いとアクセス数が下がるので、積極的に更新を心がけましょう。インターネットで調べる際にほとんどの人が検索エンジンを利用しています。特定のキーワードで検索結果の上位にあがることで、アクセス数を伸ばすことができます。

ブログ

もともとは日記などの用途で使われていたもので、時系列に記事が並び、カテゴリ分けができます。更新が簡単で、無料サービスも多いのではじめてインターネットで広報を行うのであれば取り組みやすいでしょう。

● メール

メールを送付すると登録メンバー全員に届く仕組みです。団体内での意見交換や役員会の日程調整など幅広く使われています。

登録したメンバーに同報送信でメールを送ることができるサービスです。メーリングリストと違い、相互でのやり取りではなく、イベントやボランティア情報などを会報のように送ることができるので、WEBサイトにアクセスしなくても情報を得られます。

● SNS (ソーシャルネットワーキングサービス)

たとえば会員だけが入ることのできるWEBサイトなど、用途や参加者を限った形で開設することができるサービスです。特定のテーマでの意見交換や顔の見える範囲でのコミュニケーションに適しています。

ツイッター

ツイッターなどのショートブログは、個々のユーザーが短いメッセージを投稿し、お互いに登録しあうことでゆるやかなコミュニケーションができるサービスで、タレントや政治家などが利用したり、災害時にも使われる。固定的な情報を伝えるには向いていないが、速報性が高く、リアルタイムでのやり取りが可能です。

フェイスブック

フェイスブックは8億人以上のユーザーが世界中で使っています。国によっては、交流するにはフェイスブックが欠かせないという地域も多くあります。最大の特徴は「実名」でなければならないというところです。このため、フェイスブックは、現実の世界での人間関係を基にして、交流するように設計されています。

このように、世界中で何億人も使っているサービスだけあって、政治の世界にも大きな影響を与えているばかりでなく、様々な企業が宣伝活動や、ビジネスに使われています。



WEBSAITEを使いこなそう！

誰もがあたりまえのように、メールやWEBSAITEを使う時代、アンケートからもわかるように市民活動団体の中にも、WEBSAITE（ホームページ）を作ったり、メールやブログを使って情報提供をしている方々がどんどん増えています。

あなたは、もうはじめていますか？

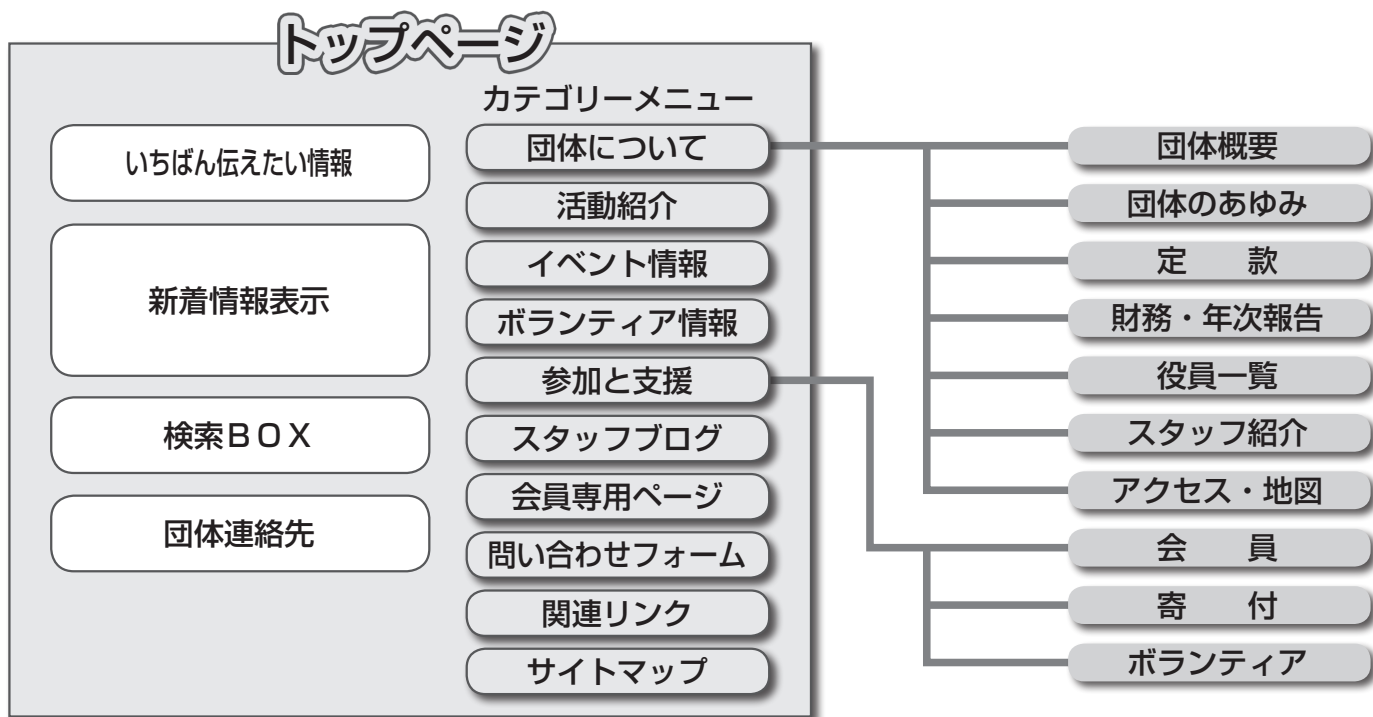
WEBSAITEは、チラシなどの印刷物と違って、どんどん更新できますので、いつも最新の情報を伝えることができます。また、WEBSAITE用に作った情報は、会報やチラシなどにも再利用できますので、「情報のリサイクル」を上手に活用しましょう。

本格的なWEBSAITEを制作する場合は、SAITEの構成をどうするかを決める必要があります。さらに、それなりの知識や技術も必要になりますが、比較的簡単にはじめることのできるサービスもあります。

代表的な構成を紹介しましたので、あなたの団体にあった構成を考えてみましょう！

代表的なWEBSAITEの構成

WEBSAITEに必要な情報を整理して、見てもらう順番を考えましょう。
送り手の都合ではなくて、見る人の立場で整理することが肝心。



活動を伝えるツールの利用実態について！「熊本市市民活動センターあいぽーとを利用している30の団体さんにお聞きしました！」 (平成25年5月調査)

・活動を伝えるツールは何ですか？ (複数回答)

第1位：WEBSAITE・・・19団体
第2位：チラシ・・・18団体
第3位：会報・・・16団体

・NPO活動にSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した事例が多くなってきました。使っているツールは何ですか？

第1位：フェイスブック・・・5団体
第2位：ユーチューブ・・・3団体
第3位：ツイッター・・・2団体

どのようにSNSを活用しています！

あいぽーとで、6月23日(日)に地域情報化 NPO による NPO のための「ソーシャルメディア&クラウドサービス活用術」が開催されました。そこで事例発表をした NPO の方に SNS をどのように活用しているかお聞きしました。

NPO 法人「くまもと未来」の澤さん

NPO くまもと未来ではビデオやスマホを手に、生活の知恵の受発信を行っています。私たち生活者が「住民ディレクター」として Ustream や Facebook、ブログなど、身近で便利な道具を日常的に使い、地域を越えた住民交流と発信もサポートしています。ハングアウト（インターネットテレビ会議）を使って、企画会議・地域づくり談義に花を咲かせています。また、全国5ヶ所をインターネットで結んで水害復興の様子を PR する Ustream 中継番組も主催しています。



「モバイルネットワーク研究所」の松川さん

Twitter は、スマートフォンやタブレット等身近なツールで簡単に素早く情報を発信でき、知りたい情報もジャンルを問わず受信することができます。有事の時にも役立つサービスですのでぜひご活用してはいかがでしょうか。

NPO 法人「UD くまもと」の矢ヶ部さん

私は、ブログ→ホームページ→フェイスブックの順に使い始めました。ホームページは訪れた人に情報を渡す場所、ブログは日々の情報を更新して常に新しい情報を提供する場所、フェイスブックは自分たちの活動状況を相手に伝える場所として各々使い分けています。つまり、ホームページやブログは店に例えるなら「看板」、フェイスブックは「行商」のような機能でしょう。

**SNS のリスクも
認識しましょう！**

ソーシャルメディアの特徴は、投稿した情報を他の人に知らせることができ機能だけでなく、他の人が投稿した情報をシェアできることです。しかし、一度投稿した情報は瞬く間にネット上で拡がりますので、内容によっては誹謗や暴言と捉えられたりすることも念頭に置いて利用しなければなりません。最近では、復興庁職員の Twitter 暴言騒動なども起きており、ソーシャルメディアを利用する際のルールやマナーが求められています。

Facebookに登録してみよう!

Step1

まず、Facebookにアクセスしましょう。

<http://www.facebook.com/>

右欄にある全ての項目を正しく入力し、その下にある[アカウント登録]をクリックして下さい。



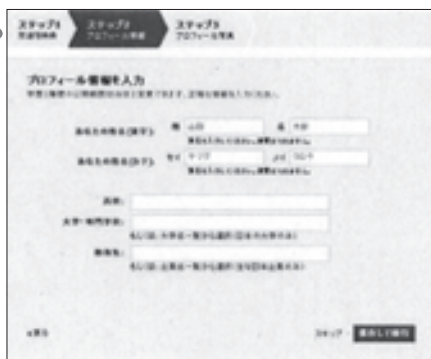
Step2



- 「友達を探しましょう」と表示されますが、これはあとからでもできますので、とりあえずスキップ。(右下)



Step3



- 氏名や学校を入力して次へ。
※ Facebook は実名での登録が原則です。
※ 店舗名やサービス名での登録もダメです! 登録は必ず個人名で!



Step4



- 写真がズラ〜っと出ますので、もし知り合いがいたら「友達になる」を押して下さい。これもあとからいつでもできますので、飛ばして次に行っても大丈夫です。



Step5



- 写真を設定する画面になります。これもスキップすることができますが、Facebookでは相手の顔が見えることで安心感や楽しさにつながりますので、写真はできるだけ早く登録しましょう。



Step6



- 登録したメールアドレス宛にFacebookからメールが届きますので、リンクをクリックして登録が完了します。

Twitter に登録してみよう！

Step1



まず、Twitter にアクセスしましょう。<http://twitter.com>

次にアカウントを新設します。必要なものはメールアドレス。画面にある「名前」「メールアドレス」「パスワード」を入力して「Twitter に登録する」を選ぶだけです。

登録はパソコンだけでなく、ケータイやスマホからもOK。

Step2

ユーザー名を設定

- 画面が切り替わったらユーザー名を入力。英数と「_」(アンダーバー)で決めます。(すでに使われている場合は、使用できない旨が表示されます。)
- ログインに使用するので、覚えやすいものにしましょう。名前とユーザー名はあとからでも変更できます。(本名でも、ハンドルネーム(ペンネーム)でもいいです。)
- 知人・友人・家族・会社の同僚などには知られたくない場合はハンドルネームを推奨します。



Step3



フォローをしましょう

- Twitter がオススメするユーザーをフォローします。(この手順を飛ばすこともできますが、流れを覚えるためにフォローしておくといいでしょう。)
- ユーザー名の横にある「フォロー」をクリックすると、フォローが開始されます。(ここで表示されるユーザーは、Twitter 社が認めた実在の人物や企業のアカウント。名前横のアイコンが目印です。)

Step4



登録メールをチェックしたら準備OK

- ひと通り手順を終えると、自分のタイムラインが表示されます。(先ほどフォローしたユーザーの発言が並んでいるかを確認してみましょう。)
- また登録したメールアドレスに確認のメールアドレスが届いているので、メールに表示されているURLをクリックすると、Twitter を楽しむための準備が完了します。

イスラム世界のボランティア活動

平成25年3月に熊本市中央区黒髪5丁目に九州では3番目のイスラミックセンターが開堂しました。熊本大学の近くということで、毎日、多くの留学生がお祈りに集まってきています。今回はインドネシアとキルギスから熊本大学に留学している学生と研究者にお話をうかがいました。



(左から) 理学部大学院生 ^{ラトゥ ファティマ} RATU FATIMAH(インドネシア)
理学部大学院生 ^{マルティナ クルニャ ローマ} MARTINA KURNIA ROHMAH(インドネシア)
工学部大学院生 ^{デニ アグス セトヨノ} DENI AGUS SETYONO(インドネシア)
工学部助教 ^{エミル オムルザク} EMIL OMURZAK(キルギス)



インドネシアにはイスラム教徒が多く暮らしています。イスラムの教えでは助け合いの精神が説かれています。私たちも、ホームレスや親のいない子ども、貧しい人に食べ物を届けたりします。特にラマダン（断食）のときには、食べ物を分かち合うことを大切にします。日本には一人暮らしの高齢者が多く居ますが、インドネシアでは、高齢者は自分の息子と一緒に生活するのが普通です。母国の大学に在学中は、バイオコミュニケーションプログラムというのがあり、山に植林をしたり、公園などの木々に学名のプレートを取り付ける活動を行いました。また、地方の村に行って子どもたちに勉強を教えたりしました。男子生徒は、農村の道路や農業用水路を造る工事を手伝うこともあります。熊本大学には、留学生をバスツアーで様々なところに連れて行き、観光や日本文化を体験するプログラムがあり、楽しんでいます。昨年の水害のとき、熊本大学の学生ボランティアが被災地に行って活動したことは、大変素晴らしいことだと思いました。日本の学生は、私たちに日本語を教えてくれたり、七夕祭りなど日本の伝統文化を紹介してくれます。



キルギスにも多くのイスラム教徒が暮らしており、イスラムの教えに従いボランティア活動が熱心に行われています。私自身も大学生の頃に、学生同士でNPO団体を立ち上げ、企業などからの支援を集め、貧しい人達に食べ物など支援物資を届ける活動をしていました。

その他にも、1年間の収入から生活費を除いた金額の2.5%を税金とは別に、貧しい人達を助けるために寄附することとなっています。このように支え合うということがイスラム教ではとても大切な教えとなっています。

日本に来てびっくりしたのは、お年寄りが重い荷物を持って一人で歩いていることです。キルギスではあまり見られません。イスラムの教えでは年長者を敬うことが説かれており、高齢者の面倒は必ず親族の誰かが見えています。だからお年寄りが買物した荷物を持って一人で歩いている姿を誰かに見られたら、その人の親族は社会の中でとても肩身の狭い思いをすることになります。

今後は、熊本大学と私の母校であるキルギス科学アカデミーとの間で交流プログラムを作り、日本の技術・知識をキルギスに伝えたいですし、キルギスのことを学びたい学生の受け入れも実現したいです。両国の学術交流、文化交流の懸け橋になりたいと願っています。

熊本イスラミックセンター・熊本マスジド



熊本市中央区黒髪5-5-2

マスジドとは礼拝堂（モスク）のことでコミュニティセンターの役割ももっています。多い時で150人がお祈りに訪れ、様々な

国から熊本に来ているイスラム教徒の心のよりどころとなっています。

また一般向けにアラビア語講座や料理教室なども開催されています。

「くまもと・わくわく基金」シンポジウム

寄附者の思いは 伝わった？



「くまもと・わくわく基金」の平成24年度助成事業報告会 & シンポジウムが5月17日、あいぽーとで開催されました。約100人が参加する中、幸山市長の開会挨拶に続き、寄附者から(株)コスギ不動産大家友弘さん、(株)えがお村上大輔さん、助成団体から発達支援親の会めだか前田慶子さん、NPO 法人しらさぎ岩崎守美さん、熊本市市民協働課和田仁課長一の5人が登場。熊本大学古賀倫嗣教授をコーディネーターに、寄附する側、助成を受ける側それぞれの基金への思い、今後への期待が語られました。

寄附者の思い

地元への恩返し dari 熊本の課題解決へ取り組む団体を応援

古賀 まずは寄附者の側からという経緯で、ご寄附いただいたかをお聞かせください。

村上 健康食品の通信販売の会社として、健康を通して社会に貢献させていただきたいと考えております。会社は社会のためにあり、

熊本に貢献しようという想いは社員全体に浸透しております。くまもと・わくわく基金は、地域の課題解決に取り組むNPOなどの市民活動を支援し、育てていくという目的がはっきりした基金であると同じ、その趣旨に共感し、ご協力できればと考え寄附させていただきました。

古賀 心と体の健康を創り出していくという企業理念の延長線上で貢献を考えられた点はとても重要だと思います。



(株)コスギ不動産
取締役専務
大家 友弘さん

大家 熊本で育った経営者は、熊本に恩返しをしたいと
を話して
常々話して
おります。
その強い思
いから地元

に貢献することは当社の使命でもあり、今回協力させていただきました。

古賀 わくわく基金は、これまでなかった地元に戻したいという思いを実現する仕組みともなっていると言えます。

助成団体の思い

発達障害児の療育のための備品が購入でき、療育が充実した

古賀 助成団体の方々は、どういうミッションで事業をされてきたのですか。

前田 21年前、発達障害の子どもを持つ親たちが集まり始めました。発達障害は診断が難



くまもと発達支援
親の会「めだか」
前田 慶子さん

しく、熊本市では就学
前までしか
療育を受け
るところが

ありません。月1回の感覚統合の療育のための費用はすべて参加者が負担、経済的負担も大きく、参加できなくなる人もいます。今回の助成金で療育のための備品を購入することができ、活動に役立てることができました。

岩崎 3月9日に阿蘇郡西原村で平成20年に植林した3600本の下草刈り作業をしました。熊本の水道の源は阿蘇山麓から高遊原台地を経由した地下水です。地球温暖化防止、熊本市の水源を守りたいとの思いで、活動をしています。

寄附者の思い

さらなる情報発信を期待したい

古賀 わくわく基金は6活動分野から指定して寄附ができます。寄附の使われ方も含め、

今後の団体への期待をお聞かせください。

大家 いずれの分野でも、団体の方々が使命を達成されますよう、今後も活動していただければと思います。

村上 健康・医療、福祉、環境保全の分野を



(例えがお) 経営企画室課長
村上 大輔さん

応援させて
いただけれ
ばと思いま
す。市民活
動団体の皆

様は、それぞれの明確な目的をお持ちで活動されていますので、目的に向かい、まい進していただきたいと思います。企業としては、自分たちの寄附がどのようにお役に立てたのか、非常に関心があります。多くの情報もたらされることで、私たち企業も応援させていたきたい気持ちも高まりますので、さらなる情報発信をお願いしたいと思います。

助成団体の思い

活動を一般に広めていきたい

古賀 今後の事業の方向性と市民への波及についてはこのように考えておられますか。

前田 今後も発達障害の子どもの困難軽減のため、感覚統合の指導者の元で療育を続けていきます。専門の先生方にとっては、小学校以降も継続して見続けることで、今後の発達障害者への対応に役立てていただけます。子ども達が引きこもることなく就労し、熊本

市に税金を納められるようになることを目指し、頑張っていきたいです。

岩崎 森林セラピストから植林から下草刈り



NPO 法人
しらさぎ
岩崎 守美さん

の一連の活
動は熊本市
の水源の確
保につなが
ることを説

明され、続けていくことの大切さを認識しました。西原村は本年度秋で契約が終わることから、新たな地を求めています。今後は、広く一般の人の参加を求める広報の方法を考えていきたいです。

古賀 最後に、この基金の設計に関わった者



コーディネーター
熊本大学
古賀 倫嗣教授

として、基
金に繋がっ
た思いをお
話したい
と思います。

1つ目は、寄附した側も、どう使われたか責任を持つ仕組みを作りたい。2つ目は、熊本地域の課題を自ら解決する仕組みを作りたい。3つ目は、実績はないが知恵と熱意がある初心者育ててみたいという思いでした。坂本竜馬は「団体の独立性は、財政の自立性から生まれる」と言っています。わくわく基金は市民が支える寄附だからこそ、独立性も担保されます。今後、わくわく基金の輪が広がっていくことを心から祈りたいと思います。

平成24年度「くまもと・わくわく基金」事業総括と今後

わくわく基金は、事業者や個人からの寄附を原資に事業費助成を行うもので、活動する市民と応援する市民をつなぐ仕組みです。あいぽーとが事業実施のサポートや団体の相談等育成支援を行っています。

平成24年度の助成は分野指定助成6事業（申請21件）、スタートアップ助成2事業（申請12件）。半年間で総額100万円と大きな額ではありませんでしたが、かなりの事業効果もたらされたと思います。担当である市民協働課のミッションは、活動成果をPRすることで、応援者を拡げていくことと考えます。団体育成支援という点では、団体同士のネットワークづくりをさらに支援をしていくことが必要と考えています。

平成25年度は分野指定助成6事業、スタートアップ助成3

事業約161万円の助成でした。

今後の課題は、わくわく基金の認知度を上げること、さらに団体の活動、事業成果が見える形で市民に知らせていくこと、加えて安定した助成を続けるための寄附金の確保です。そのためには社会貢献型自販機（現在27台）をさらに拡大したいと考えています。団体の活動を周知することで、寄附という形での応援者が増え、基金がその受け皿となるという循環ができれば、地域の課題解決に繋がる活動が活発になり、日本一暮らしやすいまちの実現につながります。寄附者の思いをしっかりとつないでいけるよう取り組んでいきたいと考えますので、今後もご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

熊本市市民協働課長 和田 仁

平成24年度

『くまもと・わくわく基金』 助成事業の成果レポート

平成24年度「くまもと・わくわく基金」では、スタートアップ助成2事業、分野指定助成の6事業の8事業に助成が行われました。

▼救急隊到着までの手助けの術 を100名が学びました▲

はーとりんく熊本

助成事業名 応急救護手当て講習会

助成金額 10万円（応急救護備品購入費等）

はーとりんく熊本では、緊急な病気やケガ、事故や災害などの思いがけない事態に遭遇した時に、現場に居合わせた人が、救急隊が到着するまでにできる「手当て」を伝え、命と心をつなぐ手助けをする「術（すべ）」をもつ人を増やす活動をしています。

今回の助成金で、心肺蘇生法、AEDの使用法、のどつまりの際の対処法、ヤケドや出血の手当法を伝える応急救護手当て講習会を5回開催。実践して学ぶ講習会ですので、参加者100名の手助けが出来る人材の育成につながった！と言えます。また、行政や校区自治協議会との連携が生まれ、今後、各地域で開催が求められるようになってきています。



▼農作業への障がい者の就労意欲 が高まり、農家の理解が深まり ました▲

特定非営利活動法人 余芳舎

助成事業名 障がい者による池田農園みかん収穫作業講習会

助成金額 10万円（講習会参加募集及び作業マニュアル作成費）



余芳舎は就労継続支援A型事業所として障がい者の就労支援を行っています。今回はその経験を活かし、就労移行支援事業所に通う精神障がい者を対象に収穫

繁忙期のみかん農園で収穫技術の訓練を実施しました。平成24年11月20日～12月28日までの1カ月間に、就労移行支援事業所2団体から13名（延べ46名）の障がい者が、玉東町にある池田農園でみかんの収穫作業に携わりました。

残念ながら今回は農園への就職にまでは結びつきませんでした。参加した障がい者は、働くことの大変さを肌で実感しつつも、やりがいを感じ、労働に対して意欲が出てきたようです。また初めて障がい者を受け入れた農園からも、障がい者が農業で働くことへの理解が深まり、今後の就労を前向きに検討するとうれしい言葉が聞かれました。

▼子ども達の自然環境を大切に する心、たくましく生きる力 を育む一助になりました▲

うえき自然塾

助成事業名 親子野外体験活動

助成金額 15万円（野外活動参加募集及び活動用備品費）



6年前から月1回日曜日に植木町の田原小学校区の里山において、親子で自然の中で料理をしたり、遊んだりして、四季折々の豊かな自然を体験してもらう活動を続けています。

10月「栗ひろいと飯盒炊飯」、11月「手作りピザ」、12月「ミニ門松づくり」、2月「はな炭づくり」、3月「ナン作り」の5回の活動には、大人192人、子ども99人の延べ271人が参加。リピーターも新しく参加する親子も増えていきます。

参加した子どもたちの笑顔や家族の満足した様子が励みになり、ボランティアスタッフも増加してきています。自然の中での活動は、子どもだけでなく、大人の生き方も豊かにすることにつながっていると感じます。



▼子ども達は伝統行事や遊びを体験する中で、小刀やマツチの使い方も覚ええました▲

さわやかボランティアーズ

助成事業名 伝統の遊びと伝承行事の子どもへの普及

助成金額 8万円(会場費及び活動備品費等)



昔からの伝承の遊びや伝統行事を地域の子どもの達に伝える活動をしており、今回の助成金で「ボランティアーズ祭り」と「ふるさと祭り」を開催しました。「ボランティアーズ祭り」は10月27日に熊本農業高校で主に川尻地域の小学生を対象に、皿回し、南京玉すだれ、竹とんぼといった伝承遊びを指導しました。当日はボランティアを含め117名が参加、子ども達からは伝承遊びの面白さを知ったとの声が聞かれました。「ふるさと祭り」は嘉島町の民家で地域の子どものや慈愛園の園児とともに餅つきやどんどこやを行いました。

遊びを指導する中で、子ども達が小刀やマツチの使い方を覚えたのは収穫でした。来年も開催してほしいという要望も多く聞かれました。



▼充実した療育ができただけでなく、ボランティア学生に療育を勉強する場を提供できました▲

くまもと発達支援親の会「めだか」

助成事業名 発達障害の子どもの療育の実施

助成金額 14万円(会場費、講師謝金及び備品・器具費)

発達障がいとは3歳までの定期健診で見つからない場合が多く、診断されないまま大変な苦労をして学校生活を送り、自信を失ってしまう子どもも多く見られます。私たちは未就学から中学3年までの発達障がいの子ども達が、感覚統合の専門家から療育を受ける機会を作る活動をしています。ただ療育に係る費用負担が大きく、本来であれば継続して受けることが望まれるのですが、経済的事情で受けられなくなる方も見受けられます。

今回の助成金で、感覚統合に必要な備品や器具を購入することができ、充実した療育ができるようになりました。5か月間で体を動かしたり、モノづくりを通じた療育と保護者勉強会を全5回開催、参加者は延べ104人、ボランティアの学生の参加も延べ24人ありました。今後、教育現場で働くことを目指している学生に、実践を通して療育を学ぶ場を提供できたことは、今後の熊本市の発達障がい児の支援の充実につながったのではないかと思います。これからもこういった療育活動を継続していきたいと思っています。



▼樹木の成長を助け、熊本市の水源を守ることにつながりました▲

NPO法人 しらすざぎ

助成事業名 阿蘇西原村植林地地下草刈り活動

助成金額 12万5000円(ボランティア運搬車両経費、活動備品費等)



平成20年度より阿蘇郡西原村宮山地区1.8haにおいて水資源涵養植樹活動を行っており、その一環として平成25年3月9日に植樹した広葉樹3600本の幼木周りの葛や雑草の下草を刈り掃う作業を行いました。

当日は白鷺電気工業の社員と家族を中心に一般の方も参加、総勢74名で森林セラピストから「森林の働き」についての話を聞いた後、2時間強の作業を行いました。

今回の活動が、水資源涵養活動として地球温暖化防止とともに水循環過程の中でこの森林が熊本市の水源を守ることに役立っていることを再認識しました。



▼広報が充実し、成年後見制度の周知が図れ、相談者が増えました▲

NPO法人

成年後見安心サポートネット熊本

助成事業名 成年後見無料相談会の広報及び開催

助成金額 10万円（広報費）

成年後見制度は、判断能力が不十分となった高齢者や障がい者が、自身で管理が難しくなった財産の管理を支援したり、不利益な契約を結んで被害を被らないよう支援する制度です。高齢者や障がい者の判断能力を補うことで、生活を守るとともに人権を擁護する素晴らしい制度ですが、まだまだ利用されていません。

今回の助成金で、成年後見無料相談会の広告を、新聞、高齢者向け情報誌等に15回掲載しました。その結果、5か月間で相談件数は34件と前の5か月と比較して13件増加した上、事務所への問い合わせも6件と増えました。

今後も相談会の開催を通して、成年後見制度

を広く知っていただき、利用拡大を図り、判断能力が不十分となった方々が安心して生活していけるよう活動していきたいと考えています。



▼リニューアルした「城下町くまもと新町・古町散策マップ」8000部ができました▲

城下町和samonもてなし隊

助成事業名 城下町新町・古町地区の観光客誘致のための受け入れ態勢整備

助成金額 20万円（印刷費）

平成22年から熊本城の城下町「新町・古町」で地元案内人によるまち歩きガイドを行っています。まち案内人と一緒に、からしれんこん作りや伝統工芸である肥後象嵌などいろいろな体験ツアーも企画しています。

今回の助成金で散策マップをリニューアルし、8000部作成しました。飲食店やお土産ものなど新町・古町の名産品を扱うお店情報を充実、観光客が自由に回遊してショッピングやランチを楽しめるようにしました。シャッターアートといった新名所を紹介している他、歴史的名所は謎を問いかける形式で紹介、案内人に真相を聞きに行きたくなるような工夫もしました。

新町・古町にいらした方は、このパンフレットを片手に散策しやすくなったと思います。新町・古町の歴史に関心をもって

もらい、案内人の語りによって歴史がより身近なものと感じてもらえるよう、今後も取り組んでいきたいと考えています。



大いに盛り上がった!!

「くまもと・わくわく基金」 平成24年度、25年度助成団体交流会

平成24年度のくまもと・わくわく基金事業報告会后に、平成24、25年度助成団体等を交えた交流会が開催され、9つのテーブルに分かれ、活動についての情報交換や意見交換が活発に行われました。

古賀教授からは、熊本の地域課題を解決するという視点を大切にする、校区自治会や新たに作られる各区のまちづくり懇話会との連携を考えていく、事業成果を振り返り課題を確認することも大事、NPO疲れに気を付け、各団体が実り豊かな成果を上げることを期待しているとのことのお話があり、和気あいあいとした交流が遅くまで続きました。



平成25年度「くまもと・わくわく基金」助成団体が決まりました！

平成25年度は、分野指定助成事業として、「保健、医療又は福祉の増進を図る活動」90万円（株式会社えがお・わくわく基金より）、「環境の保全を図る活動」45万円（コスギスマイル基金より）、「生涯学習・子どもの健全育成を図る活動」10万円、「まちづくり・地域安全の推進を図る活動」11万円、スタートアップ助成事業として30万円の助成額で募集が行われました。応募総数は19団体その中から、次の9団体に決まりました。各助成事業の概要を紹介します。

<スタートアップ助成>

団体及び助成事業名	事業概要
NPO 法人熊本わくわく体操ボランティア協会 「地域福祉施設と NPO のふれあいまちづくり・健康づくり事業」	 デイサービスの利用までには至らないが、独り住まいで話し相手もないという高齢者が地域にはたくさんいます。各校区にあるコミュニティーセンターを利用し、そういう方々が気軽に参加できる健康づくりのためのわくわく体操を行います。
NPO 法人 ヒューマン・コミュニケーション・サポート 「H・C・Sワークショップ 親子コミュニケーション事業」	子どもが健全に育ち社会で活躍するためには周囲の人とのコミュニケーションがとて大切になってきます。そのためにはまず親子の良好なコミュニケーションが必要です。月1回親子で参加するワークショップを開催し、スムーズなコミュニケーションのとり方を学びます。
あおぞら農園 「子ども達による耕作放棄地の再生、生ごみリサイクルで野菜づくり実践」	東区戸島の230坪の耕作放棄地を活用して、「あおぞらこども園」の子ども達を中心に 地域の人とともに無農薬、無化学肥料の野菜づくりを行います。生ごみからの土づくりで、土・植物・ヒトのつながりも実感でき、食べ物への感謝、環境の大切さを学びます。 

<分野指定助成>

団体及び助成事業名	事業概要
■保健・医療又は福祉の増進を図る活動（株式会社えがお・わくわく基金）	
くまもと歯っぴーかむカムひごまる協議会 「生きる喜びに繋がる口の機能の発達を促す「ベロタッチ」の普及事業」	離乳食から普通食になりうまく食事がとれない子どもが増えており、母親の大きな育児不安となっています。熊本市が開発した「ベロタッチ」は舌を刺激する簡単な方法で、効果が認められています。ベロタッチの普及のため、研修やマニュアルの作成を行っています。
with women 「産後リハビリテーション概念普及事業」	産前産後、出産を経験した女性の身体づくり及びセルフケアの推進とマイナートラブルの改善を行います。専門家による講習や相談等を開催していきます。 
はーとりんく熊本 「命と心をつなぐ「手当て」で地域救護力アップを～応急救護手当て講習会～」	※H24年度助成団体・事業概要は10ページ参照
■環境の保全を図る活動（コスギスマイル基金）	
NPO法人しらさぎ 「熊本城石垣除草・清掃ボランティア活動」	今年で10回目を迎える熊本城の石垣の除草、清掃を通じて、観光客から注目の的である「武者返し」の石垣の美を保全する環境整備活動を行います。 ※H24年度助成団体・11ページ参照
■生涯学習・子どもの健全育成を図る活動	
うえき自然塾 「野外体験を通して子ども達に生涯にわたってたくましく生きる力の基礎を育成する活動」	※H24年度助成団体・事業概要は10ページ参照
■まちづくりや地域安全の推進を図る活動	
NPO 法人日本防災士会・熊本県支部 「地域市民とNPOを活用するまちづくりの人材養成講座」	自然災害が発生した際に自らの命を守り、周りの人達を助ける方法を学べるDIG（災害図上ゲーム）、HUG（避難所、運営、ゲーム）をコミュニティーセンター等で開催し、地域の防災力を高めます。

シネマ放談 第3回 最強のふたり

ムッシュとマダムのよもやま話



ムッシュ



マダム

今回選んだのは、仏映画「最強のふたり」ですが、DVDを借りてきて初めて観ました。なかなか結構な仕上がりで、私は好きな映画でした。ただ、この映画を市民活動と結び付けて話をするのは大変だと思いました。

そうですね。実は、私も今回初めて観たんです。二年ほど前に話題になり、重度の障がい者を主人公にした、実話に基づく映画だと言ったことで気になっていました。言葉は悪いですが、障がい者をイジめるような場面もあって、確かにいい映画だとは思いましたが、障がい者がこれを見てどう思うのか、軽々と市民活動と結び付けて対談することは許されるのかなど、考えましたね。でも、人と人の心のつながりとか、生きることの意味をこんな形で見せてくれる映画はなかったんじゃないかと思えます。ストーリーを振り返りながら、そんなことを話してみませんか。

そうしましょう。主人公のフィリップは、パラグライダーの落下事故で頸椎を損傷して、首から下が全く動かないし感覚もないんですよ。

でも、高度な医療と十分な介護を受けられるほどの大富豪です。そして、彼に雇われて介助者になった若者ドリスは、家庭に問題を抱えていて、退廃的な暮らしをする黒人青年。

マリファナはやるし、窃盗で前科もある。フィリップの求人に応じて面接に来たのも、就活をしているというアリバイづくり、失業手当を受けるための書類が必要だったから、という調子です。

でも、フィリップは、ドリスを採用しました。同じ日に面接に来ていた、福祉の専門資格をもっている多くの人材をさしおいて。

そうして最強の二人組が誕生するわけですが、福祉施策的な用語で言うなら、彼らは二人とも社会的支援が必要なコンビですよ。フィリップは、自分の身体機能に加えて愛妻を病気で失っているために、心もうんとつらい。過去に採用された介助者たちは2週間とたたずに次々に去っていった。仕事は大変だし、たぶんフィリップのお気に召さなくて。ところが、働きはじめたドリスは、フィリップの下世話なんて絶対イヤだと大声で主張するし、諸事に不法法で悪品なんだけど、なぜかフィリップと馬が合う。立ち居振る舞いは乱暴だけど、すべき仕事はする。結局は下の世話もちゃんとするんですよ。

フィリップを振り回すように軽々と抱きかかえるところなんかは、実際には、あんな介助はありえないと思いますが、二人が初めて一緒に外出する場面で、ドリスが、フィリップをバンタイプ福祉車両じゃなくて、セダンタイプの高級車の助手席に乗せたでしよう。抱きかかえて。あれはきっとフィリップが以前使っていた車だと思えますが、運転席でドリスがエンジンをかけるとすごい馬力のエンジン音が出て、ドリスはご機嫌になる。こっちの車の方がいいに決まっているじゃん、という感じで。

そうでした。実は、映画の前半のあの場面くらいから観ているこっちの気持ちに案になってきたんですよ。さっき「障がい者をイジめる」って言われましてけど、例えば、ドリスがフィリップにいろんな洋服を着せたり、髭をヒトラーのチョビひげ型に剃って、手のポーズをとらせたりしますよね。全く自由の利かないフィリップの体をおもちゃにして楽しんでいる。フィリップも「おい、ドリス。これは笑えんぞ」とか言いながら苦笑している。いろんな意味できわどい演出がある映画ですが、あれは、心が通じ合う者同士だから許される、むしろ望まれる関係なんでしょう。それが、この映画の主題の一つで、観る側の心に落ちてくる。

二人がフィリップの自家用機に乗ったときに、墜落しないかなってドリスが怖がる場面があるでしょう。あそこでドリスが「あんた運が悪いだろう。パラグライダーで落ちるし、奥さん病気で死んじゃうし」みたいなことをフィリップに言うところは、DVDを観ていて、声を出して笑いました。

そう、その台本がいい。あんな関係の、気の合う友達がいるなら幸せなんでしょうね。

二人は、雇い主と雇われの身ですが、全く主従関係ではなくて対等なんですよ。そこはいかに欧米的という感じがしますが、それが映画の主題になるくらいだから、やはりあちらでも、まだバリアがあるのでしょうか。

実は、ある研修会で「商品を差別化する」と言ったら、まるで私が差別の国から差別を助長しに来た扇動者であるかのごとく罵倒されたことがあるんです。

マーケティング用語としての意味は「みんな違ってみんないい」ってところですかね。

そうですね。みんな、文字表現や用語に過敏になりすぎて世の中が少し窮屈なんじゃないかなって。構え過ぎと言っと、それは健常者のエゴなんですよが・・・。

PCがフリーズした時に一旦電源を切るように、もし、構え過ぎで固まったなら、一旦思考を切り、ドリスになれ、と。「最強のふたり」はそんな映画かも知れませんね。

実際に障がいのある方の気持ちには個人差があるでしょうし、差別を受ける側には、現実、複雑な思いもあるでしょう。ただ、マニュアル通りに障がい者に接するだけでは足りないものが多くあるでしょうし、過敏な構えが悪さをしているというのは、あるかも知れません。心のバリアフリーの問題です。壁はなかなかなくなりませんね。

ところで、二人が飛行機に乗って行った先は、パラグライダーが舞う、阿蘇の外輪山のような場所でしたよね。それぞれが、タンDEM飛行で悠々と空を飛ぶ場面では、心がスカッとしました。

フィリップが失恋したと言うか、自分に嫌気がさした後の話でしたかね。(フィリップには、自分が障がい者であることを伏せて文通を続けている女性がいたが、直接会うことをためらっていた。ドリスが世話を焼いてデートの約束をしたが、フィリップは、ドリスには内緒で、事故前の自分の写真を相手に送ってしまふ。そのことに耐えかねて、フィリップはデートの約束の店から、約束の時刻の直前に逃げ出してしまふ。)

例の高級乗用車といい、パラグライダーといい、身体の自由の利かないフィリップと乗り物の組み合わせが映画のアクセントになっています。

映画全体の流れの中で、後半になるほどドリスの振る舞いが、それなりに紳士的になっていきますよね。ドリスが実は、子どもの頃に叔母の家に養子に出されたということが明かされる。3人の子ども(血の繋がらないドリスの弟妹)を育てるために掃除婦をしながら必死に稼ぐ叔母の姿を見て、ドリスの心が家族に向く。フィリップが、それを察知してドリスに暇を出す。

代わりにフィリップはチョイワルになりますけどね。で、結局最後は、フィリップの世話はどうしにしかできなくて呼び戻される。そしてドリスは例の高級車にフィリップを乗せ、例の文通相手が住む町に連れて行き、デートを完結させるというお話。

原作のタイトルは「アンタッチャブル」ですが、邦題を「最強のふたり」としたのは秀逸ですね。

さて、最後にこの映画のどこに市民活動への啓発があるかという点ですが・・・

互助や絆、福祉ボランティアの勧め、なんてことは言いません。私は、最強の人生を見せてもらったなと思いました。フィリップの台詞に「(全く体が動かないから)自分では死ぬこともできない」というのがあります。どうせ生きなければならぬんだったら、生きることに喜びや価値を見出せる方が素晴らしい。そして、それはどんな状況に置かれても同じだ。一方、ドリスは、自分の境遇に満足できなくても、自分が必要としている家族や社会があるんだと実感できた。他者の評価はともあれ、最強の生き方ですよ。

この話には実際のモデルがいるからこそ、映画も成立する。市民活動に携わる人は、それぞれに、なにかしら最強の生き方を見つめているんじゃないかな。

NPO法人はじめの一步 (2) 申請書の作成

いよいよ法人化に向けてのスタートです。

まず NPO 法人として熊本市から認証を受けるための申請書類を作成しましょう。「設立趣旨書」「定款」「事業計画書」「活動予算書」は提出後に市民に公開（縦覧）されますので、わかりやすい表現を心がけましょう。

1 ばんに作成するのは「設立趣旨書」

なぜ NPO 法人を作る必要があるのか？社会にどのような問題があって、自分達はどのように貢献できるのか？などを説明する書類です。皆さんの思いを文章にしましょう。

「定款」や「事業計画書」「活動予算書」は熊本市の手引書に記入例がありますので、参考にして作成してください。

※書類作成でわからないことがあれば、あいぽーと NPO 相談まで

2 ばん「定款」

定款は、法人を運営する上でのルールを記したもので、いわば団体の憲法です。記すべき項目については、定款例を見ながら作成しましょう。

スタート!

法人化の要件を
みたら

申請書案を
作成しよう!

設立総会
の開催

申請書を
あいぽーと
窓口へ提出

縦覧
2ヶ月

認証

設立
登記

ゴール!!
これからが活動の本番♪

その次に「事業計画書」「活動予算書」

事業計画書は、どのような活動をしていくのかを具体的に示す書類であり、活動予算書は、その具体的な活動の予算書です。設立の初年度と翌年度「2期分」を作成する必要があります。

申請には、これらのほかに「設立認証申請書」「役員名簿」「社員名簿」などの書類を作成し、設立総会の議決を経た上で、「設立総会の議事録」を作成します。

詳しくは、
あいぽーと NPO 相談窓口 TEL 096-366-0168まで

NPO 法人設立説明会のお知らせ

あいぽーとでは、NPO 法人設立を考えている方を対象に、書類作成の方法等の説明会を開催します。

■日時 8月22日(木) 18:00~20:30
10月22日(火) 14:30~17:00

■場所 熊本市市民活動支援センター
あいぽーと会議セミナー室

※お申し込みは、ひごまるコール
TEL 096-334-1500まで

新しいNPO法人の紹介

ひとり親家庭と地域の人との交流を目指したサイトを運営

NPO法人くまっこステーション

●始めたきっかけは？

平成22年に仕事で県の「ひとり親家庭等応援事業」に関わりしました。その中で、ひとり親家庭の皆さんが生活や子育てに不安を抱いていて、周囲との関わり方にも悩んでいることを知りました。私自身もひとりで子育てをしてきたので、生活も子育ても1人で担うことのたいへんさは実感していました。県や市には、さまざまな支援制度がありますが、多くのひとり親は知りません。日々の生活に追われていて、役所に相談に行くなんて、思い浮かびませんし、そんな暇もないというのが現実です。ひっ迫している人ほど、支援から遠ざかってしまっているのです。そこで、ひとり親家庭の方々にいろいろな支援情報を届け、お互いに悩みを相談し合ったり、交流するサイトを立ち上げました。



宮崎さん

●どうしてインターネットにしたのですか？

ひとり親と言っても、実家に子どもと戻った人、ダブルワーク、トリプルワークで子育てをしている人など、置かれている立場や環境もさまざまです。ひとり親と言いたくない時期もありますし、実際に集まるのは難しいと考えました。その点、ネットであれば、顔を見せず、好きな時間に参加できます。

●現在はどのような活動をしていますか？

サイトの登録会員はひとり親や応援したい人400人。最新の支援情報をメールで知らせています。また交流イベントも企画しています。3月には会員の親子18組で阿蘇にイチゴ狩りに行きましたし、東日本大震災で被災した福島の子ども達を支援するゼロ円キャンプの募金活動もしました。使わなくなったものを無料で提供し合う「もったいない銀行」もサイト内で始めています。フリーマーケットへの出店など、まずは誰でも気軽に参加できることで交流を広めたいと思っています。



●今後は？

現在の登録会員は、熊本市の人が少ないんです。意外でしょう！まずはこのサイトをもっと多くの人に知ってもらい、会員を増やしたい！！そして、このサイトを通じて、ひとり親家庭だけでなく、経済的、精神的サポートを必要としている家庭と地域、企業・行政を結び付け、互いに助け合える仕組みを作っていきたいと考えています。

(宮崎さん談)

総合型地域スポーツクラブ NPO法人 u & u N スポ植木

●気になる法人名の由来を教えてください

「u & u」は友だちの(ゆう)、温泉が多い植木の湯(ゆ)を表し、「N」は地域に根(ね)差した文化・スポーツ環境を作りたいとの思いから、「スポ」はスポーツを北区のスポットで行う。これらの全ての略を併せて法人名としました。前身は平成19年から任意団体として活動していた「うえきクラブ(u & u)」で、平成24年12月に法人化しました。

●どんな活動をされていますか？

総合型地域スポーツクラブの運営をしています。現在会員は200名を超えており、旧植木町を中心に、小中学校の体育館やグラウンドを主な活動場所にしてしています。活動内容は、有資格者による指導のもと、親子トランポリン、ソフトボール、サッカー、エアロビクス、テニスなど、現在21の種目があり、ヒップホップダンスやベタンクなどの変わり種もあります。会員層は小学校入学前の幼児から70歳以上の高齢者まで幅広く、世代を超えた交流をしながらスポーツを楽しんでいます。



●スポーツクラブへ入会するには？

簡単です。申込書に記入し年会費を払うだけで、時間さえ合えば、いろいろな種目の講座や体験ができます。中には小・中学生で、学校の部活に参加せずうちの講座に通っている子どもさんもいます。自分のレベルに合った好きなスポーツを探すよい機会にもなります。

●スポーツクラブの運営の他にも事業をされていますか？

季節毎にいろいろなイベントの企画・運営を行っています。阿蘇で乗馬や草すべりなどの遊び、毎年恒例のスイカ祭りへの参加など、面白い企画が満載です。どのイベントも好評で、多くの方が参加されています。

●今後は？

長年、総合型地域スポーツクラブとして活動してきたのですが、意外と知名度が低いんです。もっと広報して、会員を増やして、本来の目的である、「いつでも」、「だれでも」、「どこでも」気軽にスポーツを親しむ環境を作り、地域の活性化や地域の健康づくりへつなげる活動をしたいと思っています。

(上野さん談)

★ あいぽーと仲間の1週間 ★



障がいをもっている 地域の中で自分らしく生きていくことを目指す ピープルファースト熊本

私たちは、知的障がいをはじめとした障がいを持つ当事者の自立や権利擁護（障がい者の権利を守る活動）を10年間行ってきました。会員は56名（うち当事者8名）で、すべて自分たちで活動内容を決めています。

私たちと同じように地域で自分らしく暮らしていきたいと思う皆さんの参加をお待ちしております。

■活動内容 月2回の理事会、総会、障がいを持つ当事者の自立や権利擁護（障がい者の権利を守る活動）の学習会・レクリエーション、研修などの講師

■主な活動場所

熊本県民交流館パレア、ウェルパルくまもと、熊本市障がい者福祉センター希望荘 など

■ブログ：<http://blogs.yahoo.co.jp/virtue.site.manner>

■メール:k.railstar.1101@docomo.ne.jp（代表：田寄）



schedule

5月12日（日） 当日の学習会の内容チェック。当日は知的に障がいを持つ当事者の集まりですので、わからない言葉を通訳したり連絡とったり準備をするのも、ものすごく時間がかかります。誰かがリードするのではなく、みんなで考えて作っていくことを大事にしています。

5月13日（月） 監事の人と活動内容を打合せ。

5月14日（火）～5月25日（土） それぞれ学生生活や就職活動を頑張りました。

5月26日（日） 当日の配布資料作成のため、あいぽーとにメンバー集合。熊本市青年会館で11回目となる総会と学習会を開催しました。

今回は、平成24年4月に熊本県がつくった「障害のある人もない人も共に生きる熊本づくり条例」について、参加者みんなでどうすればいいかを、自分たち障がい者が、熊本の中で生きやすい街づくりにするために考えました。

参加者からは、「自分たちにとって、いやなことがあったら、声をあげていいことがわかった！」などの感想をいただき、嬉しかったです。





(熊本市市民公益活動支援基金)

くまもと・わくわく基金からのお知らせ

くまもと・わくわく基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

熊本市民の皆さま、法人・団体等の皆さまからご寄附をいただき、平成25年7月18日現在、その寄附額は4,180,330円となっております。ご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成24年10月17日から平成25年7月18日の間にご寄附いただきました皆さまへ感謝の意を込め、以下にご芳名を掲載させていただきます。

皆さまのさらなるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

ご 芳 名	寄附額
橋本 隆一 様	ご要望により非公表
富田 由希子 様	20,000円
大司 恭史 様	10,000円
徳本 和浩 様	20,000円
和田 仁 様	ご要望により非公表
林 将孝 様	ご要望により非公表
吉牟田 聡子 様	10,000円
岡本 浩美 様	20,000円
石津 棟暎 様	ご要望により非公表
服部 真之 様	42,000円
家人 博子 様	ご要望により非公表
はっぴー整体院 院長 喰田 幸子 様	ご要望により非公表
宮本 チサエ 様	ご要望により非公表
有限会社 オー・エス収集センター 代表取締役 野原 雅浩 様	100,000円
第9回サムライ祭り実行委員会 様	30,773円
有限会社 オー・エス収集センター 代表取締役 野原 眞藏 様	830円 寄附金付自動販売機2台分
株式会社 パスト24 代表取締役 太田 康隆 様	ご要望により非公表 寄附金付自動販売機23台分
有限会社 石翔 代表取締役 内村 憲也 様	ご要望により非公表 寄附金付自動販売機1台分
有価物回収協業組合 石坂グループ 代表理事 石坂 孝光 様	300,000円
株式会社 宮食 様	ご要望により非公表 寄附金付自動販売機2台分

【掲載を希望されなかった方】8名

寄附をお考えの方

くまもと・わくわく基金への寄附をされる場合、まず「寄附申出書」にご記入いただき、熊本市市民協働課にご提出ください。その後、振込方法等をご連絡させていただきます。

寄附額には制限はありませんが、2,000円以上ですと、地方公共団体に対する寄附として「ふるさと納税」扱いとなり、税制上の優遇措置を受けることができます。

寄附のお申込みやお問合せ、ご不明な点等は、お気軽にあいぽーとまでご連絡ください。

熊本市市民活動支援センター・あいぽーと TEL096-366-0168

ホームページ http://www.kumamoto-aiport/kumamoto_wakuwaku/

あいぽーとの事業紹介

あいぽーとでは、登録されている個人（よかよかボランティア）や団体の方を対象に、交流会を開催しています。今回は個人を対象にした「ボランティアマッチング交流会」と団体を対象にした「あいぽーと利用登録団体交流会」を紹介します。

ボランティアマッチング交流会

よかよかボランティアに登録されている方の中には、ボランティア活動に興味はあるものの、実際に始める一歩がなかなか踏み出せないという方がいます。ボランティアマッチング交流会は、そういう方を対象に、ボランティアを求めている側のお話を聞き、実際にボランティア活動を体験していただくことで、ご自分に合ったボランティア活動を見つけていただく機会を提供するものです。

今回は4月26日（金）に開催し、13名の方が参加されました。まず「医療法人社団大浦会メディカルケアセンターファイン」緩和ケア病棟の森田さんからお話を伺いました。ファインはホテルのフロントのような受付、カフェテリアのような待合室など、これまでの病院のイメージとは違う、気軽に来て話ができる施設で、ボランティアも病院スタッフの一員として患者さんに対応してもらっているとのことでした。

続いて「要約筆記サークルひまわり」丸谷さんから要約筆記との出会いでご自身の世界が広がった経験談を聞き、実際に要約筆記に挑戦しました。参加者の中には、初めて体験した要約筆記に関心を持たれた方もおり、今後のボランティア活動に向けヒントを得られたようです。

※要約筆記とは聴覚障がい者の方へ、その場で話されている内容を即時に要約して文字にすること



あいぽーと利用登録団体交流会

あいぽーとには、平成25年6月末現在457の団体が利用登録されています。登録団体の方々が活動をする上での悩みを語り合ったり、活動の情報交換をする場として交流会を開催しています。

今回は5月24日（金）に開催し、13団体18名の方が参加されました。当日は、あいぽーとの会議室等はあくまでも熊本市が市民との協働の場として市民活動団体に使用していただいているという「場の提供」の考え方の話、12月に開催予定の「あいぽーと文化祭」の説明のほか、市民活動をするにあたって頭を悩ませる活動資金の調達方法である助成金申請の仕方についてのミニセミナーも開催しました。

その後はお待ちかねの交流会。「1分間スピーチ」で自己紹介のあと、活動への熱い思いを語り合い、名刺やパンフレットの交換と和やかな時間が過ぎていきました。



Editor's Note

NPO 法人の相談窓口から

本年度4月に熊本市から初めて仮認定法人が誕生しました。「特定非営利活動法人変えようより良い医療と福祉・GENKI会」さんです。

仮認定法人になると、個人が法人に寄附をした場合に、その寄附者に優遇措置として税が控除されます。そのため、寄附金が集め易くなり、法人の活動に賛同していただく市民を増やすうえで、大きな看板にもなります。

仮認定や認定になるには、運営組織及び事業活動が適正であることなど、一定の基準をクリアする必要があります。きちんとした運営や財務状況などの審査が厳しいのではと思われるかもしれませんが、日頃から真摯に取り組んでいる法人にとっては高いハードルではないと思われます。

法人の皆様、熊本市から第2、第3の認定・仮認定法人を誕生させましょう！まず第一歩は、決算後の事業報告書の提出を必ず期間内に行うことです。決算後3ヶ月以内には事業報告書の提出をしなければなりません。

今、窓口は役員変更届や事業報告書を提出される法人さんで賑わっています。加えて設立の事前相談も大変増えています。こんな初歩的なことは、いまさら聞けない等の相談も喜んでお受けします。窓口を気軽に訪れてみませんか。職員一同お待ちしております。（兵藤）

「くまもと・わくわく基金」の相談窓口から

年度が替わり、4月には、第1号助成事業である「平成24年度の助成団体」合計8団体の事業が終了しました。同時に、「平成25年度の助成団体」合計9団体が決まり、各団体の皆さんの事業がスタートしています。

助成団体の情報については、あいぽーとホームページ「くまもと・わくわく基金」のページで紹介していますので、皆さん、チェックしてください。

皆さんの興味をそそる活動が見つかるかもしれませんよ!! この「くまもと・わくわく基金」は、皆さんからの寄附を財源としています。

皆さんのご寄附が、市民活動団体やNPO法人の事業を支え、これからの熊本のまちづくり・熊本の新しい未来へつながる第一歩になりますので、ご協力を宜しくお願いします。

また、今後、「くまもと・わくわく基金」への助成申請をお考えの方もいらっしゃると思いますが、手続きはどうしたらいいのか。申請書の書き方はどうすればいいのか etc... 基金について、色々、解らないことがあると思います。そんな時には、基金相談日「わくわく Day」をご利用ください。基金についての相談は、随時受付けていますが、特に毎月9日の14:00~18:00までを、「わくわく Day」としています。ぜひ、ご利用ください。お待ちしております。（川元）

周辺地図



住所：熊本市中央区大江5丁目1-1 ウェルパルクまもと1階
電話：096-366-0168
MAIL：airport_kumamoto_city@joy.ocn.ne.jp
開館時間：午前8時30分～午後9時
休館日：毎月第2木曜および年末年始
アクセス：電車・バス「交通局前」、市道（産業道路）バス「森都病院前」

センター主催のイベントや講座、ボランティアの募集、わくわく基金等に関する詳しい情報は、ホームページをご覧ください。

<http://www.kumamoto-aiport.com>

編集後記

雨が降るたびに、昨年の「かつて経験したことのないような」豪雨災害を思い出します。災害復興に熊本市も全力を挙げて取り組みましたが、ボランティアの方々の力も大きかったと思います。被害にあった当事者からは被災後の暑い中を、見ず知らずの方々が黙々とお手伝いいただいた事が、何よりの励みになったとの言葉が聞かれました。人と人との絆は、こうした非常事態の時こそ生きてくるものなんですね。熊本市市民活動支援センターあいぽーとでは、そうした自発的な市民の活動をお手伝いしています。（景）

eyes（あいず）

7月号 2013年7月16日発行

★発行所

熊本市市民活動支援センター・あいぽーと
〒862-0971
熊本県熊本市中央区大江5丁目1-1
ウェルパルクまもと1階
TEL：096-366-0168

★印刷所

シモダ印刷株式会社

本誌掲載記事の無断転載を禁じます

あいぽーと Information

NPO設立説明会

NPO 法人化を考えている任意団体や個人の方を対象に、法人設立の基礎的な知識や認証申請の際の書類作成についての説明会を開催します。(いずれの日程も内容は同じです)

- 日時：平成25年8月22日(木)、10月22日(火)、12月20日(金)
- 場所：ウェルパルクまもと1階 熊本市市民活動支援センター・あいぽーと
- 対象：NPO 法人設立を考えている団体や個人

ボランティア登録者研修会

あいぽーとにボランティア個人登録をされている方を対象に、「災害ボランティア」の研修会を開催します。登録をしたけれど何から始めていいかわからない方、ぜひこの機会にご参加ください。

- 日時：平成25年9月29日(日)(予定)
- 場所：ウェルパルクまもと1階 熊本市市民活動支援センター・あいぽーと
- 対象：あいぽーと個人登録者 ※随時登録受付中

新設NPO法人向け「ふたばセミナー」

NPO法人を設立した当初は、今後の団体運営や広報、活動報告書の作成など、わからないことが多くあると思います。そこで数多くのNPOの悩みにアドバイスしてきた専門家によるセミナーを開催します。

- 日時：平成25年11月13日(水)
- 場所：ウェルパルクまもと1階 熊本市市民活動支援センター・あいぽーと
- 対象：平成25年度にNPO 法人化した団体

人材育成セミナー「助成金申請の心得」

活動に合った助成金の探し方、申請の方法、助成後の報告書の書き方まで助成金申請の心得についてのセミナーを開催します。

- 日時：平成25年12月5日(木)
- 場所：ウェルパルクまもと1階 熊本市市民活動支援センター・あいぽーと
- 対象：熊本市内で活動している市民活動団体

第5回あいぽーと文化祭

あいぽーとで活動している団体の日頃の活動成果を発表する「あいぽーと文化祭」を今年も開催します。

- 日時：平成25年12月8日(日)
- 場所：ウェルパルクまもと1階 熊本市市民活動支援センター・あいぽーと

お申込みや詳細についてのお問合せは下記までご連絡ください。

熊本市市民活動支援センター・あいぽーと TEL 096-366-0168 FAX 096-366-8830